

【破砕業】

1. 事業計画書及び収支見積書 様式 1 (記載例)

本例はあくまでも一つの記入例であるので、各自のものを記入すること。

事業計画書及び収支見積書 (様式 1)

平成 16 年 7 月 1 日 現在作成

1 - 1 . 事業の全体計画 (業務を行う時間、従業員数、休業日、扱う車種を含む。)

解体業者から解体自動車を引取り、シュレッディングマシンで破砕後、鉄、非鉄、A S R に分別する。一部解体自動車をプレスして鉄スクラップ原料とする。分別・処理した物品の扱いは次のとおり。 鉄・・・電炉メーカーに売却 輸出業者に売却 非鉄金属・・・非鉄金属商社に売却 A S R・・・自動車メーカー等の指定する引取場所に引渡 <div style="text-align: right;">(フロー概略図を添付 (省略))</div>					
業務時間	8 : 30 ~ 17 : 00	従業員数	20 人	休業日	日曜日・祝祭日

1 - 2 . 解体自動車等の引取実績及び計画

年 度	13 年度実績 (3 年前)	14 年度実績 (2 年前)	15 年度実績 (1 年前)	許 可 取 得 後 の 年 間 計 画
引取台数	20,000 台	22,000 台	24,000 台	25,000 台
主な引取先	解体業者等	解体業者等	解体業者等	解体業者等

1 - 3 . 破砕実績 (圧縮のみ含む)

年 度	13 年度実績 (3 年前)	14 年度実績 (2 年前)	15 年度実績 (1 年前)
年間処理実績	20,000 台	22,000 台	22,000 台
年間稼働日数	280 日	280 日	280 日
平均処理実績	71 台/日	79 台/日	79 台/日

1 - 4 . 破砕等能力

1 日当処理能力	稼働予定日数	年間処理能力
100 台 / 日	280 日	28,000 台

1 - 5 . 保管の状況

解 体 自 動 車		A S R	
保管量の上限	1,200 台	保管量の上限	7,000 m ³
現在保管量	1,000 台	現在保管量	22,000 m ³

2. 事業計画書及び収支見積書 様式2
 (保管基準を超えて保管している場合に限る)

本例はあくまでも一つの記入例
 であるので、各自のものを記入
 すること。

事業計画書及び収支見積書 (様式2)

2 - 1 . 不適正に大量に保管している解体自動車等の処理計画

保管量上限を超過している廃棄物の種類(すべて記載)(注1)	A S R 解体自動車
保管量上限超過している廃棄物の搬出の方法	自社ダンプ(11t)により搬出(A S R) 自社で破砕処理(解体自動車)
搬出先の所在地及び名称	興業株(A S R、最終処分場、市町番地) 破砕処理後分別した金属については売却する。(金属株、市×町丁目)
搬出先での処理の方法	埋め立て処理、焼却(A S R) 溶融(金属)
年間搬出予定量(種類別)	15,000m ³ (A S R保管上限超過分) 100,000m ³ (A S R総量)
過去1年間の年間搬出実績(種類別)	78,500m ³ (A S R)
改善完了予定年月日	平成17年6月30日
改善にかかる予定費用	搬出費用 万円 処分費用 万円 販売費用 万円 計 × 万円
改善にかかる資金の調達先	自己資金

(注1) 解体自動車、A S R以外の廃棄物がある場合には保管量も記入すること。